

教育委員会の動き

- 第1回定例会(1月16日)
(議案)
◆東久留米市教育委員会規程の一部改正について
(諸報告)
●市議会(第4回定例会)報告について ほか5件
第2回定例会(2月6日)
(議案)
◆東久留米市公立学校職員の任免の内申について
◆東久留米市立学校医等の委嘱について
◆東久留米市青少年委員の委嘱について
◆平成18年度東久留米市教育委員会教育目標及び平成18年度東久留米市教育委員会の基本方針について
◆東久留米市スポーツセンター条例の一部を改正する条例の制定依頼について
◆東久留米市スポーツセンター条例施行規則の一部改正について
(諸報告)
◆平成18年度予算(案)の概要および平成18年度主要事業について ほか3件
第3回定例会(3月2日)
(議案)
◆東久留米市公民館運営審議会委員の委嘱について
(諸報告)
●市議会(第1回定例会)報告について ほか1件
第4回定例会(4月5日)
(議案)
◆東久留米市市民大学運営委員会委員の委嘱について
(諸報告)
●第5回幼児教育検討委員会の討議概要について ほか3件
第5回定例会(5月9日)
(議案)
◆東久留米市社会教育委員の委嘱について
◆東久留米市市民大学運営委員会委員の委嘱について
(諸報告)
●第6回幼児教育検討委員会の討議概要について ほか2件
第6回定例会(6月9日)
(諸報告)
●東部地域の学校適正配置等に関する懇談会の報告について ほか3件

市立学校の適正配置等に関する懇談会の開催状況

〈東部地域〉
平成15年7月に東部地域の第二小・第四小・第六小・神宝小および関連する第三小の保護者・地域住民・教職員等で発足した「東部地域の学校適正配置等に関する懇談会」が本年3月に終了し、報告書が提出されました。
報告書は『可能な限り将来を見通しつつ、学校再編を』と結んでいます。市および教育委員会は、この報告を踏まえ、東部地域の学校適正配置計画の策定に取り組みしていきます。
〈中部地域〉
中部地域ではすでに懇談会報告書が提出されています。また、第八小を含む「都立六仙公園」も本年4月に一部開園されており、具体的な実施計画案の策定を急ぐとともに、引き続き関係者のご理解とご協力を得ながら、第八小の再編を進めて行きます。
〈西部地域〉
西部地域では、平成16年4月に滝山小と第七小および第九小を統合しました。
その後、2回の入学式・卒業式を経て、現在、第七小は499名15学級(心障学級は18名)、第九小は572名18学級の規模になっています。教育委員会では、今後とも統合後の両校を見守りつつ、適正規模化に取り組んでいきます。
◆ ◆
教育委員会では、各地域で保護者をはじめ地域の方々と話し合いを行いながら、ご理解ご協力が得られるよう進めていきます。
詳しくは学校適正化等担当 内線3140へ。

平成18年度 東久留米市教育委員会 教育目標

市教育委員会では、平成18年度の教育目標を次のとおり定めました。詳しくは指導室 470・7781へ。

教育は、常に、普遍的かつ個性的な文化の創造と豊かな社会の実現を目指し、平和的な国家及び社会の形成者として自主的精神にみちた健全な人間の育成と、わが国の歴史や文化を尊重し国際社会に生きる日本人の育成とを期して行われなければならない。

東久留米市教育委員会は、このような考え方に立ち、児童・生徒が人間性豊かに成長することを願うとともに、すべての市民がよりよく生きるための力を身に付け、生涯を通じ学び、支え合うことができる社会の実現を目指す。

また、教育は、家庭、学校(園)及び地域のそれぞれが責任を果たし、連携して初めて成り立つとの認識に立ち、すべての市民が教育に参加することを目指し、東京都教育委員会及び他の区市町村教育委員会等と連携して、積極的に教育行政を推進していく。

■平成18年度 教育目標■

【自ら学び、知を創造する人間】学ぶことの楽しさを知り、基礎・基本を習得し、それをもとに発想力や創造力を伸ばし、知を創造できる人間を育てる。また、知識や技能に加えて、学ぶ意欲や、自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決をする資質や能力等を含めた「確かな学力」を育成する。

【豊かな心と人間性を高めていく人間】社会生活を送る上で必要とされる規範意識を身に付けるとともに、自立心、誠実さ、公正さ、責任感や思いやりの心、礼儀、自然を愛する心、感動する心、生命を大切にすることを高めていく人間を育てる。また、社会の一員として、人権尊重の理念を正しく理解し、社会に貢献しようとする人間を育てる。

【たくましく成長する人間】人間として創造的な活動をするために不可欠な体力を培い、たくましく成長し、充実した人生を送る人間を育てる。また、生涯を通じて積極的にスポーツに親しむ習慣や意欲、能力を育成する。

【粘り強く行動し、実現する人間】生涯を通じて、社会づくりの主体であるという自覚と行動力、勇気、公共心を持ち、何事にも挑戦し、目標を実現する人間を育てる。また、学んだことを生かして行動し、自己の能力を伸ばす努力を惜しまず、生涯を通じて自己実現を目指そうとする意欲や態度を育成する。

なお、東久留米市教育委員会は、東久留米市基本構想の掲げる「水と緑とふれあいのまち」と、それを実現するために示された「人を大切にするまちづくり」という基本理念の下、「教育目標」を達成するために、以下の「基本方針」及び施策の方向に基づき、総合的に教育施策を推進する。

■平成18年度 教育方針■

- ①人権尊重及び社会貢献の精神の育成②健やかな心と体の育成③安全な学校(園)と信頼される教育の確立④確かな学力の育成⑤生涯学習の振興を目的とした連携・協力の推進

図書館の利用(貸出)点数が2千万点に達しました!

昭和48年2月、上の原の東久留米団地の一室を改造した39㎡の「上の原婦人子ども図書館」が開館しました。それから35年。平成18年1月21日午前11時15分ごろ、個人利用点数が2千万点(図書・雑誌・紙芝居・視聴覚資料すべての合計)に到達しました。これを記念して、その時に本を借りる手続きをしていた各館3名ずつに記念品(東久留米市の絵葉書)が贈られました。記念品をプレゼントされた方からは「読みたい本を取り寄せてくれるのもうれしいで



す。これからも利用させていただきます」「年をとってきて、ますます本を読みたいです」「今後も市民のために頑張ってください」といったコメントをいただきました。詳しくは中央図書館 475・4646へ。

<2千万点ってどれくらい?>

図書館で借り出されるものは厚さもさまざまですが、仮に1点を1.5cmとして積み上げていくと...
20,000,000点×1.5cm=30,000,000cm=300,000m=300kmになります。
これは東京タワーの約900倍、富士山の約80倍の高さになります!

「東京文化財ウィーク」は東京都教育委員会の呼びかけで、より多くの都民に文化財を身近に感じてもらうために、都・区市町村および民間団体の協力によって実施されている事業です。毎年11月3日の文化の日

東京文化財ウィーク 2005 東京都知事賞を受賞



を中心に、都内の文化財が一斉に公開され、文化財めぐりや講演会・展覧会・現

地解説などのさまざまな企画事業が開催されています。本市では、これまで都指定史跡の米津家大名墓所や市指定文化財の公開解説、郷土史講座などの事業を行ってきましたが、昨年の11月27・28日に新企画事業として実施した「秋の柳窪集落特別見学会(江戸から明治の民家と文化財)」が東京文化財ウィーク2005「東京都知事賞を受賞しました。都内377件の参加事業の中から選定された。今年度も旧柳窪や前沢村の見学会や新企画事業等を行う予定です。10月の市広報でお知らせします。
財係 470・7784 へ。

この地域最初の総合学科高校が誕生! 都立東久留米地区総合学科高校(仮称)が平成19年4月に開校します

平成19年度に都立久留米高校および都立清瀬東高校を発展的に統合し、新しいタイプの都立高校が開校します。本校は大学進学等、進学指導を重視した総合学科高校です。計画的なキャリア教育を通じて、進路への自覚を深め、進学に向けての目的意識を高めていきます。また、6系列を設定し、多彩な選択科目を設置します。その中から自分の適性を見出して、進路希望に合わせた学習ができます。
【主な特色】総合学科は教員数も多く、少人数授業や習熟度別授業によって、きめ細かく行き届いた授業を実施▼サッカー部をはじめとする部活動の充実▼新入生へのガイダンスとキャリア教育